令和８年度第１回鹿屋市史編さん委員会 会議記録

日　時	令和８年10月20日（火）13:30　～　14:20
場　所	市役所庁議室
出席者	【鹿屋市史編さん委員会　委員】 郷原　拓男　（鹿屋市長） 中野　健作　（鹿屋市教育長） 堂込　秀人　（鹿児島県考古学会会長） 東川　隆太郎（NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会） 朝倉　悦郎　（大隅史談会　理事） 富高　賢　　（鹿屋市立図書館長） 松矢　功一郎（鹿屋市総合政策部長） 隈元　成人　（鹿屋市教育委員会教育部長）
会次第	１　開会 ２　委員の委嘱 ３　市長挨拶 ４　委員及び事務局の紹介 ５　議題 (1) 鹿屋市史編さん基本方針について (2) 鹿屋市史編集委員会の設置について (3) 「鹿屋市史」構成案について (4) 委員の会議、調査謝礼案について ６　その他 (1)次回開催予定について ７　閉会

■主な質疑等

発言者	内容
	【鹿屋市史編さん基本方針について】
東川委員	○ 市史編さんは地域の歴史を見つめ直す大変良い機会になる。大事なことは市民の皆さんの参画を求めること。資料の掘り起こしを市民と行うことで、これからの市史編さんの在り方、モデルになると思う。
東川委員	○ 昨年が戦後80年で、鹿屋市は様々な事業に取り組み、いろいろな資料を集めて宝の山になっている。タイミングとしてもよい。
市長	○ ワークショップ等を通じて市民にアプローチして参画を求めていきたい。
堂込委員	○ 地域史のエリアはどのエリアで考えているのか。地域の歴史を探る上で学校史が大切との指摘があるが、学校の歴史資料が急速に失われており、今集めることが重要だ。地域史の中で学校史の掘り起こしを行っていただきたい。

事務局	○ 資料収集のアプローチの一つとして学校資料の収集に努めたい。地域史のエリアは、旧郷で考えている。
朝倉委員	○ 鹿屋市史の平成版が入手できない。販売数が少ないからであり、販売部数は多くしてほしい。
朝倉委員	○ 興味があるのは人物史だが、実績だけでなく生い立ちなども記してくれると楽しく読めるため、人物編を充実してほしい。女性も増やしてほしい。
市長	○ 発行部数は今後検討すべきことと考える。郷土愛を育む上でも、ヒーローは重要だ。
事務局	○ 人物史は、編集委員会でも協議していきたい。発行部数については、作業を通じて今後検討することとしたい。
富高委員	○ 資料の保管について図書館を考えていただいており、ありがたく感じる。特に古い写真には問合せがあり、図書館で閲覧できるようにしていただけるとありがたい。図書室のスペースの問題もあるので、こうしたところも検討できればと思う。
市長	○ 公文書館の必要を感じており、編さん作業を通じて検討できればよい。
東川委員	○ ダイジェスト版を出版すれば発行部数も伸ばせると思う。編さん後を目途に、ダイジェスト版の在り方を考えてもよいと思う。
堂込委員	○ 市史の本体自体は専門用語を使う必要があるが、ダイジェスト版なら中学生までも対象にできるため有意義だと思う。
市長	○ ダイジェスト版も検討していきたい。
堂込委員	○ 市民参画の市史編さんは、職員側の負担も大きくなるので、その辺の体制づくりについても検討いただけるとありがたい。
市長	○ 職員体制は検討していきたい。 ○ 基本方針案を承認することとする。 **【鹿屋市史編集委員会の設置について】** （なし）
市長	○ 案のとおり承認する。初回会議は３月に開催する。 **【「鹿屋市史」構成案について】** （なし）
市長	○ 案のとおり承認し、詳細は編集委員会により審議する。 **【委員の会議、調査謝礼案について】** （なし）
市長	○ 市において決定する。 **【その他】**
事務局	○ 次回は令和９年度に開催したい。